

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2017年10月★第123号

楽しい交流の時間、MELONフェスタを開催しました！

第22回MELON会員と市民のつどい～ MELONフェスタ～

日 時：9月23日（土・祝）13：30～16：00

会 場：仙台市シルバーセンター 7F 第1研修室

参加者：87名

学生PRタイム・東北工大「たんぼぼ」の熱演



会員と役員・事務局の交流を目的に開催している恒例のMELONフェスタ。今年はサンバグループ「サンバ de バテール」の皆さんの楽しい演奏で幕を開け、会員企業や部会・プロジェクトによるブース出展、県内3大学のサークルとMELONインターン生によるPRタイム、最後はブース表彰式と盛りだくさんの内容でした。

役員と部会メンバーや他部会のメンバー同士など、いつもの活動では接触の少ない会員同士が交流する機会にもなり楽しい時間を過ごしました。（詳細はP2参照）。



サンバdeバテールさんの来場者も入れての演奏

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 交流の場、MELONフェスタを開催しました！
- P2 MELONフェスタ、楽しい秋の1日となりました
- P3 ネオニコチノイド系農薬をテーマに活動しています！
／仙臺農塾 大人の食育プロジェクト
- P4 一緒に環境紙芝居を上演しませんか？
かんきょう見聞記「イノシシの肩を持つ」
- P5 協同組合からのお知らせ
目指せ100人！環境リレートーク 早坂麻矢さん
- P6 ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7 復興のシンボルとして寄り添う沿岸部の「水の神さま」
／親子で自然エネルギーについて楽しく学びました♪
／雨のKoboパークで元気な子どもたちに会えました！
- P8 トピックス／イベント一覧／編集後記

MELON フェスタ、楽しい秋の1日となりました！



石垣実行委員長挨拶

石垣政裕実行委員長の挨拶と MELON 第6期 事業報告に続き、オープニングはサンバグループ「サンバ de バテール」の皆さんの演奏です。サンバのリズムに乗りながら軽快にスタート。途中から来場者に飛び入り参加を促し一緒に演奏させてくれました。聞くというよりも会場全員で演奏しているような一体感のあるとても楽しい内容でした。

学生サークルPRタイムでは、3つの大学サークルに加え、損保ジャパンCSOラーニング制度により MELON でインターン活動をしている3人の大学生インターンも出演しました。映像や寸劇など若々しい発想でそれぞれ工夫をこらした活動発表が場を盛り上げました。

会場内では、MELONの会員企業有志と部会・プロジェクト、学生がブース出展し、3つの部門ごとに来場者が良いと思ったブースを投票してもらいました。そして、それぞれトップの票を得たブースと、各部門の2位のブース中、最も得票の多かったブースの計4団体を表彰しました。ブースはどれも好評で投票は大接戦となりました。また、理事長が独断で表彰する理事長賞も発表され、大いに盛り上がりました。

来場者からは「環境に対する熱意が伝わってきて、もっと多くの人に知って欲しいと思った。」「環境のことを考える若者がたくさんいて頼もしく感じた。」など嬉しい感想がたくさんありました。MELONで活動していても

普段は顔を合わせる機会が少なく、なかなかゆっくり話す機会がない他部会のメンバー同士や役員と会員などが一同に会し、交流してお互いの活動を知ったり親睦を深めたりする良い機会となりました。

来年以後もより良い会員と市民のつどいを目指し、改善点を確認しながら内容を検討していきます！ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました！



にぎわうブースエリア

◆ブース表彰者（カッコ内は賞品提供企業）

- 会員企業部門：有限会社高橋建設（株式会社サイコー）
- 学生部門：尚絅学院大学・環境活動サークルFROGS（みやぎ生活協同組合）
- 部会・プロジェクト部門：水部会（株式会社建築工房零）
- 各部門2位のうち最も得票の多かったブース：東北工業大学・環境サークルたんぼぼ（有限会社高橋建設）

◆理事長賞（賞品提供：長谷川公一理事長）

- 菊地ひろ子さん
MELON 評議員、気仙沼地域で長年に渡り活動中
(宮城県地球温暖化防止活動推進員・「青空エコカフェ」代表)



ブース投票受賞者と景品提供企業の皆さん

来年以後もより良い会員と市民のつどいを目指し、改善点を確認しながら内容を検討していきます！ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました！

来年以後もより良い会員と市民のつどいを目指し、改善点を確認しながら内容を検討していきます！ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました！



理事長賞・菊地ひろ子さんと長谷川理事長

<出展会員企業&出演・出展学生サークル>

株式会社サイコー、有限会社高橋建設、株式会社パートナーズ、みやぎ生活協同組合、環境活動サークルFROGS（尚絅学院大学）、環境サークルEVOL（東北福祉大学）、環境サークルたんぼぼ（東北工業大学）、MELONインターン生

ネオニコチノイド系農薬をテーマに活動しています！

「田んぼの中には何がいます？」

～ネオニコフリーの田んぼで生きもの調査～

日時：9月16日（土）9：00～14：00

場所：黒川郡大郷町土橋北町1（講師の田んぼ）

講師：郷右近秀俊さん

（有限会社大郷グリーンファーマーズ 取締役社長）

内容：紙芝居の上演、講師のお話し、生きもの調査

参加者：15名



小雨が降る中、ビニールハウスの中でお話しを聞きました

最近新聞などでも目にするようになってきた「ネオニコチノイド系農薬」。食部会ではこれまでアンケート調査やシンポジウム、ブース出展などを実施してきました。今年はもっとたくさんの方に知ってもらうために、「ネオニコチノイ

ド系農薬」をテーマにした紙芝居を作製しました！

9月16日に、ネオニコチノイド系農薬を使わない（ネオニコフリー）でお米作りをしている生産者の田んぼで、生きもの調査と紙芝居の上演を実施しまし



小雨も上がって、みんなでワイワイ生きもの調査♪

た。普段は夏に生きもの調査を実施しているようで、この時期にはあまり生きものがいないのでは？と心配されましたが、田んぼやあぜ道にはイナゴやトンボ、コオロギやカマキリなど、たくさんの昆虫を見つけることができました。

今回の見学会で参加者の皆さんは、郷右近さんの苦労や大変さだけでなく、ネオニコフリーで取り組むようになったきっかけやその思いを知ることができたと思います。身近なところで使われている「ネオニコチノイド系農薬」について、皆さんも考えてみませんか？

仙臺農塾

大人の食育プロジェクト

第7回「山の恵みと保存食～人の知恵が生んだ美味しさのひみつ～」

日時：6月7日（水）19：00～21：00

会場：kaffe tomte（青葉区立町18-12ライオンズマンション西公園第3 103）

ゲスト：宍戸志津子さん（丸森町の生産者・野菜ソムリエ）

参加者：19名

Vol.5最終回は宮城県丸森町で農業を営む宍戸志津子さんをお迎えしました。野菜ソムリエとしても活動し、地域の小学校などで食育活動も行っています。

昔の人々は寒さや飢えに耐えるために、長期保存が可能な“保存食”を作り、暮らしを成り立たせてきました。保存の方法は「干す」「塩漬け」「砂糖漬け」など多岐にわたり、身近なところで多くの保存食が作られています。

中山間地域に位置する丸森では、フキ、タラの芽、タカノツメ、コシアブラなどの豊かな食材を手に入れることができます。たとえばフキは「天日干し」



参加者と交流しながら、楽しくお話ししていました

「塩もみ」「煮る」「水にさらす」といった段階を経てから、煮詰めたりして食べます。自然界のものを食べるには、多くの手間と時間がかかることが分かります。

ゲストの原点は明治

生まれの曾祖母だといいます。昔の暮らしは生きるための知恵が詰まっており、その大切さを教えてくれたのが曾祖母だったそうです。物心がついた時から、よく山菜を取りに一緒に山へ出かけていたといいます。曾祖母から引き継いだ食の大切さや生きるための知恵を、次の世代に引き継いでいきたいと考え食育活動を行ってきたそうです。

会場となったkaffe tomteの相原百合さんは「とにかく美味しい野菜だから、作り手としてやる気が出ました。」と話してくださいました。今回は、生産者の誇りを持つゲストと、応えようとするお店の熱意が一体となった講座でした。今後も食の楽しさと奥深さを学べる講座を実施していきます。それでは、仙臺農塾 Vol.6も楽しみに！



シンプルなのにしっかりとした味付けのプレート

一緒に環境紙芝居を上演しませんか？

仙台長町紙芝居フェスティバル
 日 時：9月2日（土）10：30～15：00
 場 所：たいはっくる、長町笹谷街道周辺
 （MELONの上演場所：あすと長町中央公園）
 主 催：仙台長町紙芝居フェスティバル実行委員会、
 長町まざらいん

長町から山形へ至る笹谷街道周辺では紙芝居の活動が熱いことをご存知ですか？紙芝居の活動を行っている団体が一堂に会し、笹谷街道周辺6箇所ですべて同時に紙芝居を

上演するという町おこしイベント。今年で6回目の開催となり、地域に根づいてきたように感じます。

MELONでは環境紙芝居を3作品上演しました。「ありがとうごはんつぶマン」と「ス

イッチ忍者」、そして「ネオニコチノイド系農薬ってなあに？」です。ネオニコチノイド系農薬の紙芝居はできたてほやほやの紙芝居！まだまだ広く一般には知られていないネオニコチノイド系農薬の特徴を多くの方に知ってもらいたいと、食部会が作製しました。中身は

小学校3年生以上を対象にした内容となっています。上演はNPO法人劇団仙台小劇場と同じ場所で交互に行い、公園で遊んでいた親子や子どもたちに楽しんでもらいました。

子どもと関わるのが好きな方、演じるのが好きな方、ぜひ一緒に紙芝居の上演活動をしませんか？秋冬はさまざまなイベントで紙芝居を上演する機会がありますので、募集しています！



食部会作製紙芝居
 「ネオニコチノイド系農薬ってなあに？」



「紙芝居に来ない？」と声をかけると「行く！」と親子連れがきてくれました



イノシシの肩を持つ

落語篇⑥

桂文珍

「池田の猪買い」

石垣政裕（MELON 理事）

かわいげのない、ふてぶてしい顔。ほんとうにイノシシはその容姿で損をしています。ちょいちょい町場に現れて大騒ぎになるクマと比べてみても、クマの方に軍配が上がります。なぜかという、クマが描かれている絵本の方がダントツに多いからです。イノシシはうり坊（イノシシの子ども）として登場するのがぜいぜいです。確かに、農作物を食い荒らす鳥獣の被害はイノシシによるものがダントツ（例えば2016年度9,157万円）なのでから。

今回は、桂文珍の「池田の猪買い」（朝日名人会ライブシリーズ36 桂文珍19、ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル）を聞いてみましょう。イノシシはかなり昔から食べられていました（渡辺実「日本食生活史」、吉川弘文館）。仏教の教えか

ら四つ足の動物を食べることを忌み嫌った江戸時代でも、薬用という名目で食べられていました。余談ですが、司馬遼太郎は小説「峠」にこのイノシシ肉が食べられていたことを書いています。

主人公は冷え性になってしまったので、大阪の北にある池田の猟師六太夫さんの所に猪の肉を買いに行きます。取れたての肉の方が効果があるというので、山へ一緒に猪猟に行くというお話です。桂文珍の語りは、しょっちゅう自分で自分の話しにツッコミを入れますが、その直前に“間”を充分とります。これが実に効果的で、聞いている人を笑いの中に引きずり込んでいき、厭きさせません。

さて、あんまりかわいげのないイノシシが原発事故後、宮城の県南で急激に増えており、丸森周辺が北限だったのに、どんどん北上しているといわれています。イノシシの肉の出荷制限が続いており、狩猟が縮小しているのが原因といわれています（河北新報2017年5月7日宮城版）。人間の都合で『害獣』になってしまうイノシシの肩（肩の肉じゃありませんよ）を持って、どうしてもエネルギー行政にツッコミを入れたくなくなってしまいますね。なんとも迷惑な話です。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

「エシカル消費」ってなあに？

「エシカル」とは倫理的という意味です。地域や社会、環境や人々に配慮してモノやサービスを買うことを言います。

地域の産業をサポートし、生産者と消費者がつながる「めぐみ野」*の活動や、環境配慮商品を積極的に購入すること、発展途上国の農産物や製品を、農家のくらしが成り立つ公平（フェア）な価格で継続的に輸入する「フェアトレード」の仕組みを理解し、製品を選択するなどエシカル消費です。

日本生協連では、「自立する人々を支える」取り組みとして、乳がんに対する啓発と患者や家族の支援を進めるピンクリボン運動に協力しています。キャンペーン期間10月1日～11月20日中にコープ化粧品（全商品対象）を購入すると、1品につき1円が認定NPO法人J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）に寄附されます。

誰かの笑顔につながるお買い物、それが「エシカル消費」です。



*みやぎ生協が行っている生産者と消費者を直接結ぶ取り組み。3つの基準「産地と生産者が明確であること、生産方法と手段が明確であること、生協メンバーと生産者の交流がされていること」を満たす商品に「めぐみ野」という名前をつけています。



目指せ100人！ 環境リレートーク



第66人目の執筆者
早坂 麻矢さん

「空き家バンク」という町の制度を利用して家族で川崎町に移住してきたのは、2016年の春。

それ以前から、古い家を自分たちの住み良いように手直ししながら生活していましたが、今度の家でもあちこちリフォームを続けながら暮らしています。

ものを大切に使う。ごみを減らそう。そういった意識よりも先に立つのは、まだ使えるけれどもそのままでは息絶えてしまいそうなものが、ひとひねりの発想で手を加えることで、息を吹き返すかのように新たな役割を得ていきいきとよみがえる、その過程を味わいたいという思いかもしれません。

庭の柵に使用した木材の余りが子どもの夏休みの

工作の材料になったり、履けなくなったブーツの革がパッチワークで椅子の座面になったり。とはいえ、何でもためこんでしまうのは身も心も風通しが悪くなってしまいます。また、電化製品などは新型の方が環境効率が良いこともあるので、その時々でさまざまな視点で物事を俯瞰（ひんげん）してみることも大切にしています。

そもそもエコというものは、これからも永く人間らしく朗らかで幸せな社会が続くように、言葉を借りれば持続可能な社会であるために行われるものであるのですから、頑なにこだわることや無理をしすぎることで周囲の人々や自分自身の間らしさそのものを損ねてしまってはいけません。これからもバランスをとりながら、暮らすことに真摯に向き合って楽しみたいと思います。

… 次号執筆者紹介 …

大森玲子さん
(有機農家びいなすふぁあむ)



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.78

キリバス共和国を通し地球温暖化を考える～キリバス環境出前講話～

太平洋に浮かぶ小さな島国「キリバス共和国」。世界で一番早く朝を迎える、とても美しい国です。そんなキリバスは今、国がなくなる危機に直面しています。その原因は「地球温暖化」。



民族衣装を着てキリバス語で挨拶するオノさん

そんなキリバスの現状と地球温暖化問題について伝えるため、ケンタロ・オノさん（キリバス共和国名誉領事館名誉領事・大使顧問、仙台市出身・在住）とともに、昨年度実施した「キリバス環境出前講話」。

大きな好評と要望を受け、今年度も6月より募集と実施を開始しました。キ

リバスの言葉や食べ物、学校、暮らしなどを美しい写真とともに楽しく伝えるオノさん。一方で、地球温暖化の影響によるシビアな面も訴えます。近年、乾季と雨季のバランスが崩れたり、今まで経験したことのなかったような悪天候など気候の異変を感じることも増えたそうです。低海拔環礁国であるため、強い台風が来ると島中に海水が入り込みます。学校が海水に浸水することで休校を余儀なくされたり、地下水に海水が混ざることにより飲み水が減ったり、キリバスにおける気候変動は、国土の損失よりも先に、教育問題や食料問題の面で国の存亡に関わる深刻な問題です。

この講話を通し、子ども達一人ひとりが地球温暖化を現実のものとしてとらえ、アクションを起こすきっかけになることを願っています。

家庭で、オフィスで、地域で取り組む温暖化防止

2016年11月に「パリ協定」が発効し、すべての国が参加し温暖化対策に取り組むことが決まりました。日本でも「地球温暖化対策計画」（2016年5月環境省）にて、2030年度までに26.0%削減（2013年度比）を目標に掲げ、温暖化対策の加速化が求められています。一方で、温暖化に関する世間の関心度は高いとは言えず、宮城県内のCO₂排出量は、2010年比（基準年）10.9%増加している現状もあります。

このような状況をふまえ、今年度、宮城県「地球温暖

化防止対策普及啓発事業」を受け、地域からの地球温暖化防止を促進するため、推進員等と連携し家庭および事業者向けの普及啓発事業を実施しています。

これまで「学都『仙台・宮城』サイエンス・デイ2017（7月16日（日）実施）」、「『震災対策技術展』東北（8月3・4日（木・金）実施）」へブース出展し、家庭やオフィスでできる省エネ対策を伝えました。

また、ベガルタ仙台のホームゲームに合わせスタジアム内にて「エコチャレンジフェスタinユアスタ仙台2017（7月30日（日）実施）」を開催しました。

今後も、秋から冬にかけてイベントが目白押し！宮城県からのCO₂排出削減を目指し、一人ひとりできることから始めましょう！



※運輸部門には自家用車使用による排出量を含む。
※「エネルギー転換」は、グラフスケール上見えない程度の量。



スタジアムのフィールド内から1万人を超える観客に向かって地球温暖化防止をPR（7月30日エコチャレンジフェスタ）

復興のシンボルとして寄り添う沿岸部の「水の神さま」

水部会で受託した「2016年度まちづくり人財援助成金」を活用し、2016年以降に調査した県内沿岸部の5つの「水の神さま」についてまとめた冊子「宮城県沿岸地域における水の神さま調査報告書」を作成しました。

2008年から始まった「水の神さま」調査は、震災後、被害を受けた沿岸部に調査地域を拡大。沿岸部の多くの「水の神さま」が津波によって物理的に破壊され、復興の困難さを痛感しました。一方で、復興のシンボリック役割として地域コミュニティの再建に取り組んでいるところもありました。今回の報告書では、震災後の状況に

ついてもまとめています。

<掲載した神社>

- 1 日高見神社（石巻市）
- 2 釣石神社（石巻市）
- 3 高砂神社（仙台市）
- 4 水神社（山元町）
- 5 金蛇水神社（岩沼市）



ご希望の方に冊子を配布しています。
お問合せはMELON事務局まで。

親子で自然エネルギーについて楽しく学びました♪

「親子でソーラーカーを作ろう！」

日 程：7月22日（土）10：00～12：00

場 所：フォレスト仙台501集会室

毎年、夏休み中に開催しているソーラーカー作り。会場は夏休みに入ったばかりの子どもたちと保護者の皆さんの熱気で溢れていました。ソーラーカーは太陽光パネルで発電した電気で動くので、二酸化炭素の削減について学ぶことができます。

自然エネルギーO×クイズでは、省エネルギーや地球温暖化に関する問題を出題しました。簡単な問題でした

が、低学年の子どもが分からないときは保護者が理由を説明しながら回答していました。ソーラーカー作りでは、普段忙しいお父さん、お母さんと一緒に親子仲良く時間を過ごしていたのがとても印象的でした。自宅でも、自然エネルギーを取り入れてくれるといいですね！



地球温暖化の仕組みをクイズ形式で学習しました！

雨のKoboパークで元気な子どもたちに出会えました！

Koboパーク宮城エコ体験ブース

日 程：8月9日（水）、10日（木）

場 所：Koboパーク宮城内 スマイルグリコパーク

参加者：361名（2日間合計）



エコ検定を通して、球場の環境の取り組みを学習できました！

毎年恒例となった夏の子ども向け企画に協力してきました！今回は観覧車などのアトラクションが集まる「スマイルグリコパーク」で実施したので、元気な

子どもたちが集まってくれました。

今年は、「石油依存度チェック」と「ソーラーランタン作り」という2つの新しい企画を実施しました。石油依存度チェックは、20個ある問いに回答すると普段の生活でどのくらい石油に依存しているかが分かります。ソーラーランタンは、球場から出た使用済みのプラスチックコップに、太陽光パネルが付いたLEDライトを組み合わせで作ります。作った子どもが「さっそく夜になったらランタンを使いたい！」と嬉しそうに話してくれました。

今年の夏は雨空で肌寒い日が続きましたが、参加者は環境について楽しく勉強できたのではないのでしょうか。

「オーガニック・ウィーク・センダイ2017」を開催します!

今年で2年目となる「オーガニック・ウィーク・センダイ」。実施期間は11月3日(金)～11月12日(日)。宮城県内でさまざまな有機農業・オーガニック関連のイベントが実施されます。organicな10日間をぜひお楽しみください!
詳細URL: <https://www.organicweek.jp/>



イベント概要

「オーガニック・ウィーク・センダイ2017 実行委員会合同イベント(仮)」

日時: 11月11日(土) 10:30～16:00
場所: 仙台市市民活動サポートセンター
内容: 映画上映「ザ・トゥルー・コスト ～ファストファッション 真の代償～」、講演会、トークセッションなど

「環境フォーラムせんだい2017」で紙芝居上演決定!

「環境フォーラムせんだい」とは、身近な環境問題を見つめ直し、未来の仙台の環境について考え行動するきっかけとなることを目指したイベントです。ステージ発表やブース展示もあり、一日楽しめる内容となっています。MELON食部会が進める、ネオニコチノイド系農薬に関する紙芝居も上演予定です。ぜひお気軽にご参加ください。

イベント概要

日時: 12月10日(日) 10:00～15:00
場所: せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア
内容: MELON食部会では、ステージ上でネオニコチノイド系農薬に関する紙芝居を上演するほか、ブースでもネオニコチノイド系農薬に関する情報提供を行います。食の大切さについて、一緒に考えてみませんか?

編集後記

- 何でもIT化の時代。便利と引き換えに自分の周りに一体どれだけの電波が飛び交っているのでしょうか?目に見えないだけに何となく不安です。。。 (小林)
- 毎年夏にグリーンカーテンを育てています!今年はゴーヤを育てましたが、冷夏の影響かあまり数ができませんでした。残念です。。。 (菅田)
- パズルをはじめシソやルッコラなど季節ごとの葉物野菜を使った「ジェノベーゼ」作りにはまっています。パスタ以外にお魚やお肉につけて焼くのもおすすめです♪ (吉田)

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

10/24(火)	食部会 例会
10/26(木)	情報センター 例会
10/27(金)	水部会 例会
10/28(土)	「秋の森で遊ぼう!～川崎町貸森林で自然観察&山の遊び体験会!～」開催
10/29(日)	「おおがわらオータムフェスタ」にブース出展
11/3(金・祝)	「石巻市環境フェア」にブース出展
11/3(金・祝)～ 11/12(日)	「オーガニック・ウィーク・センダイ2017」実施
11/6(月)	みやぎ里山応援団 例会
11/8(水)	仙臺農塾 Vol.6 第2回「自然に寄り添うお米作り～土と植物と、あとは人の手間だけ～」
11/10(金)	自然エネルギー等普及プロジェクト 例会
11/11(土)	「オーガニック・ウィーク・センダイ2017 実行委員会合同イベント(仮)」開催
11/18(土)	「第4回みちのく薪びと祭り in 宮城なるこ木を使って森を元気に!薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ」
11/29(水)	「ごみのゆくえをみましょう!」開催
12/2(土)	「MELON cafe プチ講座リメイクキャンドル作り」開催
12/5(火)	MELON cafe 企画部 例会
12/10(日)	「環境フォーラムせんだい2017」にブース出展

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

〈会員状況〉

624名
法人 67
任意団体 10
個人 547
2017年9月30日現在

ボランティアポイントカード制度をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをする、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。



MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用いただけます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL <http://www.melon.or.jp/melon/>

落丁・乱丁の場合は、MELON事務局までご連絡ください。



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。